の頃までは、猶正しく唱へたりし成るべし、○中略或記云、細川家より御引渡の高、下毛郡四萬三千百九十二石四斗三升八合九勺九才、

〔續日本紀 十三 聖武〕天平十二年九月己酉、大將軍東人等言、豐前國○中略下毛郡○郡原作野、據二一本一改、擬少領无位勇山伎美麻呂、○中略來歸官軍、

〔大內家壁書〕從二山口一於二御分國中一行程日數事○中略

豐前國○中略　下毛郡五日、請文十五日、○中略

寬正二年六月廿九日　備中守奉　秀明○下略

宇佐郡

〔豐前國志 四下〕宇佐郡

此郡の名義は、神武天皇菟狹に行幸し、時宇佐津彥命、宇佐津姬命、足一ツ騰の宮をまふけ、大饗（ミアヘ）を獻りし事見へ、其後景行紀菟狹川に至り云々、其後宇佐と云事所々に出たり、古き郡名と通ゆ、一の卷に斷り置し如く、企救の地よりは道法も遠き所なれば、こまかに知得難く、百分の一をもと記し置、此郡東は豐後速見玖珠の兩郡、西は下毛郡に隣り、北は海也、郡內都て二百餘村有、當國第一の大郡なり、

〔豐前志 九〕宇佐郡上鄕十、村二百十七、○中略或記云、細川家より御引渡の高、宇佐郡七萬五千八百九十九石三斗六升八合五勺、

〔日本書紀 三 神武〕其年○太歲甲寅十月辛酉、天皇親帥諸皇子舟師東征、○中略行至筑紫國菟狹、菟狹者地名也、此云二宇佐一、時有二菟狹國造祖、號曰二菟狹津彥菟狹津媛一、乃於二菟狹川上一造二一柱騰宮一而奉レ饗焉、

〔大內家壁書〕從二山口一於二御分國中一行程日數事○中略

豐前國○中略　宇佐郡六日、請文十七日、○中略

寬正二年六月廿九日　備中守奉　秀明○下略